

令和6年度 葵が丘小学校 学校評価

I 令和6年度の取組

質の高い学習・生活の実現【主体的・対話的で深い学びの実現 一人一人が活躍できる場の保障】 学習・生活の基盤整備【実践的指導力の向上 学校と地域、家庭の一体的推進、地域における子供の活躍】		
【知】 確かな学力を育む：確かな学力プラン	【徳】 夢や希望を育む：心の育成プラン	【体】 健康・安全を育む 健康・安全育成プラン
<ul style="list-style-type: none"> ○考える楽しさ、分かるうれしさを味わわせる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等で育む資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図りながらその育成を図った。（研究授業の実施） ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識し、子供たちの学ぶ意欲を引き出す単元構想、課題解決的な授業構想等を立案し、効果的にICTの活用を図りながら学習過程の改善に努めた。（ICT活用した授業、家庭学習） ○地域に開かれた学びの推進と、「学ぼうふるさと」学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出て体験活動をしたり、地域の人材から学んだりして、地域の教育力を生かした教育活動を推進した。（外部人材との連携） ○家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが自ら「学びたい」と感じる学習を主体的に行うことができるようにICTを活用した家庭学習も積極的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ未然防止の理解と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・葵グループでの活動（葵遊びや葵清掃など）や学年間での交流を通して、他者との関わり方を身に付けたり、思いやりや助け合いの心を育んだりし、子供自身で課題を解決する力（ピア・サポート）を育てた。 ○特別活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学級での活動及び学校行事等の特別活動により、自分の役割に責任をもって取り組んだり、目標に向けて主体的に参加したりする機会を作った。 ・学校やみんなのために何ができるか考え、その実現に向けて行動する子供を育てよう努めた。（びかびか清掃、クリーンウォーク） ・委員会活動では、イベントや集会の立案や参加等を通して、主体的に他者に関わる実践ができた。（挨拶、苗植え、ドッジボール大会等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や体育的活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・体育科の授業では、チームや個人の課題を明確にさせ、課題解決に向けて対話する場面を設け、主体的に活動に取り組んだ。 ・持久走・体力テスト・部活動では、体力の実態を踏まえ、個々に目標を定め、その達成を目指す活動を行った。 ○体を動かすことの習慣化を図る取組 <ul style="list-style-type: none"> ・運動週間（投力、持久力向上等）を設定し、仲間と協働することを通して、運動する楽しさや達成感を味わわせた。（各種スポーツイベント） ・外遊びを奨励し、日常生活における体力づくりの意識化を図った。（持久走、的あて、縄跳び等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とPTAの連携による学校行事及び学習活動の支援の活性化 ・ 地域行事等における児童ボランティア等の主体的参加 ・ 学校支援CDを中心とした学校支体制づくり 		

II 自己評価 ○ 児童の評価

区開成 で中 指校	ルールやマナーを守り、よいこと・悪いことを判断して行動している。	85.0%
	地域のためになることをしている。	68.1%
	自分や周りの人を大切にしている。	87.6%
宣言 葵っ 子	だれとでも明るく心のこもった挨拶をしている。	81.5%
	人への思いやり・助け合い・ゆずり合いの気持ちを大切にしている。	88.6%
	強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組んでいる。	86.1%
学力 確か な	授業の内容が理解できる。	85.2%
	自分なりに進んで考えたり工夫したりして、学習に取り組んでいる。	81.9%
	タブレットを使った学習は、自分の役に立っている。	87.4%
希望 夢や	学校を楽しんでいる。	84.8%
	よりよい学級や学校をつくらうと行動している。	75.1%
安全 健康	運動することが楽しいと感じたり、目標をもって運動したりしている。	85.6%
	健康や安全に気を付けて生活している。	85.0%
学校	先生は、勉強がよくわかるように教えてくれる。	92.5%
	先生は、いじめがなく、みんなが仲良く過ごせるようにしてくれる。	92.1%
	先生は、困ったことがあったときに相談しやすい。	83.0%
	学校は、安全や健康に過ごすために大事なことを教えてくれる。	93.3%

○ 職員の評価・分析考察

- ・ 授業構想を工夫したりICTを活用したりしながら、授業改善を行ってきた。しかし今後も児童一人一人が、粘り強く学習に取り組みながら、さらに基礎基本的な学力の定着を目指す必要性を感じている教員が多い。また魅力のある課題設定をしながら、児童が授業や家庭学習で主体的な学びが展開できるように工夫していかなければいけない。
- ・ ICTの積極的な活用や外部人材との連携により、授業がより深まり実り多い学習につながった。今後も、学年ごと年間を見通した継続的な活用（モラル指導を含む）や連携を計画的に進める必要がある。
- ・ 学校説明会や学校、学年だより、教育面談等で児童の様子を伝えながら家庭との連携を図ることができた。しかし家庭教育講座や懇談会の参加率は低く、「共に協力し合い子供たちを育てる」風土の醸成をさらに図っていききたい。今後も教員は「あったか・あんしん・ていねい」を合言葉に児童や保護者、地域と信頼関係の構築に努めていく。
- ・ コミュニティ・スクールの充実により、目的に合った外部講師の招へいやサポーターの参加が増えた。学校として縦のつながりも意識した体験的活動ができた。今後も目的や6か年のつながりを意識した実践の積み上げを図りたい。
- ・ 葵グループでの活動では、ピアタイムを含めたことでよりよい人間関係構築のための重要な活動になった。特に高学年がリーダーとして活躍し、自己有用感を高める機会になった。
- ・ 体力アップを目的としたイベントや期間を設けたが体力の低下は続いている。今後も児童の健康や体力づくりに対する意識の向上を図る必要がある。

IV 今後の改善方策

- ◇ 学年団研修の実践や外部講師招よう等で教員の研修を一層充実させる。魅力のある課題設定、授業改善に向けて、研修に取り組む。また、学校支援CDと連携し、専門的かつ体験的な学習の場を計画的に設定する。
- ◇ 温かい関わり合いができるよう、特別活動の充実（学級活動、縦割り活動、委員会活動）を図っていく。今後も継続していじめ予防教育の理解と実践に行う。アンケートでの調査を引き続き実施しながら、児童との対話を大事にしていく。
- ◇ 情報活用能力の育成を目指し、ICTを有効活用した授業の推進を図る。授業での活用だけでなく、家庭にも持ち帰り、家庭学習でも利用できるように機会を作る。情報モラルに関する指導も並行して行っていく。
- ◇ 参観会や懇談会、家庭教育講座など保護者への呼び掛けを積極的に行い、共に協力し合い子供たちを育てる風土の醸成を一層図っていく。
- ◇ 体育科の学習、持久走記録会、外遊び等の体力アップの時間を通して、目標に向かって粘り強く挑戦する態度を育てる場を工夫し設定する。（「葵チャレンジ」有効活用）

○ 保護者の評価

区開成 で中 指校	お子さんは、ルールやマナーを守り、よいこと・悪いことを判断して行動している。	92.3%
	お子さんは、地域の行事に進んで参加したり、地域のためになることをしようとしていたりしている。	41.8%
	お子さんは、自分や周りの人を大切にしている。	93.7%
宣言 葵っ 子	お子さんは、だれとでも明るく心のこもった挨拶をしている。	71.7%
	お子さんは、人への思いやり・助け合い・ゆずり合いの気持ちを大切にしている。	89.4%
	お子さんは、強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組んでいる。	70.6%
学力 確か な	お子さんは、基礎的・基本的な学習内容が定着している。	73.5%
	お子さんは、主体的に学習に取り組んでいる。	64.4%
	タブレットを使った学習は、お子さんの学習の充実につながっている。	78.4%
希望 夢や	お子さんは、学校が楽しいと感じている。	89.9%
	お子さんは、行事に楽しく参加したり進んで委員会や係活動をしたりして、生き生きと生活している。	90.9%
安全 健康	お子さんは、体力作りに努めている。	66.3%
	お子さんは、健康や安全に気をつけた生活を送ろうとしている。	84.2%
学校	学校は、お子さんを理解し、個に応じた支援をしている。	85.1%
	学校は、いじめのない学校・学級・集団づくりに取り組んでいる。	80.3%
	学校と家庭は、教育相談等により、相談しやすい関係となっている。	92.3%
	学校は、安全確保や健康管理のための取り組みを行っている。	92.7%
	学校は、たよりやホームページ等により、必要な情報を発信している。	93.3%

III 学校運営協議会による学校関係者評価

- ・ 主体性の育成、いじめ未然防止の理解と実践など学校運営の基本方針についての説明を受け、理解に努めた。さまざまな観点から意見を出し合い、充実した熟議を行った。委員一人一人のモチベーションが向上し、活発な意見交換がされ、価値のある熟議ができた。
- ・ 基本方針に対して共通理解が持っており、何が必要なか理解しているので、学校支援コーディネーターを中心に、保護者・地域を巻き込み活動することができた。
- ・ 児童は、学習活動の中で、子供たち一人一人が主体性を持ち、しっかりとした考えや意見を発表する姿が多く見られ、着実に成長していると感じた。
- ・ 昨年度に比べ、さくら連絡網での情報発信が増えたように思うが、一歩的な発信に留まるのではなく質問できる場などがあれば、さらに理解を深めることができると感じる。
- ・ 「主体性の育成」という目標には終わりがなく、今後も継続して取り組むべきだと考える。委員を中心に、学校・保護者・地域が一丸となり、学校の抱える課題に取り組んでいきたい。特に参観会や懇談会には、多くの保護者に参加を呼びかけ、学校と保護者同士、また保護者同士が連携していく雰囲気を高めていきたい。
- ・ 評価を踏まえた更なる発展のためにも、保護者と地域への周知を広げていくことが大切だと考える。様々な年齢層の交流等、人との関わりによる体験・経験を通して、子供たちの社会に対する視野の拡大につながるような取組を充実させていきたい。